第 37 回電気通信普及財団賞 受賞論文
～テレコム学際研究学生賞～

＜順不同、敬称略＞

※受賞者の所属は論文・著作発行時のものです。

最優秀賞

「Cooperation patterns of members in networks during co-creation」

(Springer Nature, Scientific Reports, 2021 年 6 月)

楊　鯤昊　東京大学 大学院総合文化研究科 博士課程後期課程 3 年

共著者　藤崎 樹、植田 一博

本論文は、オンライン上の共創活動による小説創作では、創造的役割は周辺メンバーが、その修正の役割を中心メンバーが持つことを 3 つのデータセットを用いて明らかにした。新型コロナウイルス感染症（COVID-19）によるテレワークの作業効率が問題になっている折、オンラインの共同作業での役割分担を明確にしたという点でタイムリーであり、社会の求める研究成果である。学生はデータ収集、分析など中心的役割を果たし、論文発表等アクティビティも高く、テレコム学際研究学生賞の最優秀賞に値する。

奨励賞

「Emotion-involved human decision-making model」

(Taylor & Francis, Mathematical and Computer Modelling of Dynamical Systems, 2021 年 10 月)

飯沼　楓　電気通信大学 大学院情報理工学研究科 機械知能システム学専攻 修士 2 年

共著者　小木曽 公尚

本論文は、感情ダイナミクスを組み込んだ新たな意思決定モデルを提案し、感情によって非合理的な行動を選択する要因を分析することで、非合理的な行動選択の回避策について論じている。実際の裁判記録を集め、提案モデルによって非合理的な行動を説明している点を評価する。今後はより多くの事例を解析することが望まれる。

奨励賞

「Finding and Generating a Missing Part for Story Completion」

(The 4th Joint SIGHUM Workshop on Computational Linguistics for Cultural Heritage, Social Sciences, Humanities and Literature, 2020 年 12 月)

森　友亮　東京大学 大学院情報理工学系研究科 博士後期課程 5 年

共著者　山根 宏彰、椋田 悠介、原田 達也

本論文は、ストーリのどこに欠落があるかを予測し、文章を補完する深層学習手法を提案している。小説の執筆活動の創作支援という観点から書かれた論文で着眼点は独創的であり、論文としての完成度も高い。欠落文書の位置推定や欠落している文書の補完についてともに不十分であり、得られた成果は直ちに有用であるとまでは言えないが、学際研究としての意義は大きい。

奨励賞

「知識構築活動におけるアイディア向上プロセス分析に基づく学習成果を向上させる条件」

（日本教育工学会，日本教育工学会論文誌，2021 年 6 月）

川久保アンソニージェイ太稀　静岡大学 大学院総合科学技術研究科
情報学専攻 修士課程 2 年

共著者　大島 純、大島 律子

本論文は、アイディアという抽象的な概念について、Problem-based Learning (PBL)に参加した大学生のノートに基づいてアイディア向上のプロセスを分析し、アイディア向上と学習成果を上げる 3 条件を明らかにした点、またその際、学生同士の対話音声について定性分析も行っている点が評価できる。まだ限定的な状況の下での結果であること、分析・評価手法の一部に関して主観的な部分が見られることは今後改良すべき点と思われる。

奨励賞

「アルゴリズムの判断はいつ差別になるのか—COMPAS 事例を参照して」

（北海道大学大学院文学研究院応用倫理・応用哲学研究教育センター，応用倫理，2021 年 3 月）

前田　春香　東京大学 大学院学際情報学府 博士後期課程 1 年
理化学研究所 革新知能統合研究センター（AIP）

アルゴリズム差別は AI の重要課題として注目を集めている。本論文は、技術倫理の側からではなく倫理学の規範理論を適用し、具体的には人種的バイアスが議論になった COMPAS（アメリカの再犯リスク評価プログラム）について検証を行い、個人の尊厳に反するような表現を提示することで道徳的に不正な差別を行っていることを示した、挑戦的かつレベルの高い学際的研究である。今後は他の事例にも取り組まれ、研究の深化・発展に期待する。